

三者面談に思う

ありがたい親の思いと願い！

昨日で三者面談が終了しました。お忙しいところ、学校にきてくださりありがとうございました。

生徒と親と私で、学校生活や家庭での様子、よくがんばっていることやちょっと努力が足りないことなどをお互いに話し合いました。そんな中で、あらためてみなさんの親御さんの思いに触れ、ありがたいことだなあと感じる場面が何度もありました。

学校でうまく溶け込めているか、提出物は出せているか、授業中の取り組みの様子はどうか、このままで高校進学は大丈夫か、効果的な勉強方法はないか・・・といった直接の話題はもちろんですが、言葉かけやまなざしに、我が子の幸せを願う気持ちが強く感じられました。

みなさんにとっては小言に聞こえたり、しつこいと感じさせられたりすることがあるかも知れませんが、親の心というものは想像以上のものです。みなさんが一人立ちしてゆくのに、どうしても身につけてほしいことがあって、それが親の言葉となるのですからきちんと受け止めなければいけませんね。

例えば、提出物のことなどは、どの親も「最低、そのことはしっかりしてほしい」と言います。これは、学校の勉強という範囲に留まらず、社会生活の中での責任と迷惑とが思われるからです。期限を守ってやるべきことはやるというのが、信用の第一歩ですから、先生も親も口を酸っぱくして言うのです。三者面談で、提出物のことで親をがっかりさせてしまった人は、ぜひ改善をし、自分の責任を果たせるようになって、親も喜ばせてください。

私が、みなさんの良い点に触れたり、努力している点や成長したところを話題としたりすると、親御さんがうれしそうにしてくれるので、いい話をしたいなあといつも思っていました。でも、実際は注意や注文が多くなり、みなさんにとっては耳の痛い話が多かったと思います。

この面談で話されたことや感じたことを大事にし、また努力していくことがいちばんの親孝行だと思います。親の前では素直になれないときもあるかもしれませんが、みなさんの幸せを思う親の心と願いに感謝して、日々を送ってほしいと思います。

両親＝良心

過去無量の命をつなぎ、ここに私の命がある。親孝行とは、良心を大切に
して親に心配をかけないことです。

参 考

・・・私の尊敬する山田暁生先生のご著書より

子どもにとって、安らぎの場となる家庭 10のタイプ

1. 明るく、つねに冗談が飛び交う家庭。
2. 子どものユーモアに上手につき合える親であること。
3. 本当のことを言ったとき、たとえそれが悪いことでも、頭ごなしに叱ったり、罰したりしない。
4. みんな健康で、それぞれが好きなことを思いっきりできている家庭。
5. 隣の芝生を気にしない。マイペースのわが家。
6. 家族が、あいさつや感謝、ねぎらいの言葉を互いによくかけ合っている。
7. 時には夫婦げんかがあっても、基本的には仲が良く、楽しい会話が行き交っている。
8. きょうだい、親子、みんながよく助け合い、支え合う家庭。
9. 深刻にならず、家族みんなが、真剣に、力を合わせて、やる時にはやる家庭。
10. 楽天的。開けっ広げ。時には大笑い。温かい言葉のかけ合いがある家庭。

『中学生を持つ両親へ』山田暁生著 あすなる書房より

家庭学習「100時間突破計画」のその後

クラス合計で10000時間を超える！

5月29日にスタートしたこの計画は、家庭学習の累計時間を個人では100時間、クラス合計では3700時間(H君の転入で3800時間に修正)という目標を設定しました。

初めは、本当に100時間もできるのだろうかと思っていた人がほとんどでしたが、今はその目標をはるかに超え、個人でも500時間に迫ろうとしている人がいるくらいです。

12月12日現在の累計時間は

クラス合計 10126時間31分です。(個人平均266時間)

個人のトップ5 479時間=Gさん

477時間=Oさん

428時間=M君

410時間=S君

405時間=T君

生活ノートに「○○○時間を超えてうれしい！今度はその上を目指します。」などと書かれているのを読むととてもうれしくなります。3月末にはどれだけいくでしょう。